

平成 29 年度第 1 回特定鳥獣保護管理検討委員会及び
屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカ・ワーキンググループ合同会議
議事概要

開催日時：平成 29 年 8 月 1 日 14:00～16:30

場 所：屋久島環境文化センター1F レクチャー室

議事(1)前回合同会議の検討経過概要等について

- ・委員からの意見は特になし。

議事(2)ヤクシカの現状について

<個体数推定について>

- ・個体数推定について、河川界区分ごとの推定密度の合計値は、各区分の下限合計から上限合計をとっているのではなく、島全体で推計した結果になっている。
- ・推定個体数の推移については、データが蓄積されているため、状態空間モデル（ベイズ推計）に基づいて個体数の推定ができると思われるので推計方法を検討するとよい。
- ・屋久島でベイズ推計を用いた個体数推定を行う場合は、河川界別の 10 地域を独立した個体群とみなして推定し（移動は考慮しない）、この中で数の整合性をみていく。一方で島全体としても推定する。2 通りの推定を比較することで、推定個体数の上限・下限値を見直すことができる。
- ・親が定住していても、仔が移動している可能性はある。幼獣の移動の推測は、今後ポイントになる。

<捕獲効率について>

- ・27 年、28 年度についての捕獲効率が下がっている状況である。具体的にはスレジカが影響していることが考えられる。29 年度結果を含めて、捕獲効率減少の要因を検討していく。
- ・スレジカ増加の判断は糞粒法等の密度指標の変化と CPUE の変化を比較する事である。
- ・センサーカメラを設置して、わなに対する警戒心を見るなど、糞塊法、糞粒法よりも詳しくモニタリングするとよい。現状の調査方法を継続しても、減少要因が分からないまま捕獲数が減少していく。わなに警戒する個体が増加しているようであれば、現場ではわな設置箇所を変更するなどの対応が必要となる。
- ・現場の感覚としては、山でのシカの確認回数は減り、個体数は減ってはいるようだが、わなを警戒している個体が残っているようである。
- ・同じわなを同じ様に設置して捕獲数が高いまま推移している場合には、キャッチアビリティはそのまま同じ様に推移していると考えていい。

<捕獲数について>

- ・許可捕獲数が全般的に減少してきているが、捕獲数に補助金予算が影響されることはない。
- ・国有林外でも、減少傾向にある地域と増加傾向にある地域がある。国有林内では、スレジカの問題、自然変動で減少するタイミングに重なっている効果もあるかと思われる。今後の見極めが必要。
- ・捕獲数は減少傾向にあるが、島全体としては減少し続けるとは楽観できない。捕獲できていない地域を放置すると、島全体として減少傾向とならない可能性が強いと思われる。
- ・確実に捕獲数が減少してきているという箇所があるという認識はしてよい。スレジカの問題もあるが、糞塊・糞粒法等の密度指標の変化を追跡することで、ある程度はスレジカによる影響は明確にできる。短期的なブレもあるので、それぞれの調査を継続して、見極めていく。
- ・栗生から尾之間と永田ではいまだに捕獲できる状態にあり、増加傾向を抑制できていない。他地域では、スレジカが増加しているために生息数はそれほど減少してなくとも、捕獲数だけが減少している状況にあるのかどうかを見極めることが非常に大きな課題。
- ・銃猟捕獲とは、ほとんどが巻狩りである。なお、屋久島では、7 割から 8 割はわなで捕獲している。

各わな設置は個人で行っており、設置範囲が決まっている。わな設置が継続するに伴って、その範囲のシカがスレてきてわなに掛からなくなっていることが捕獲数減少の大きな要因だと思われる。

議事(3)平成 28 年度及び 29 年度の取組について

<捕獲後の適正処理について>

- ・捕獲の適正処理について、利活用に関しては、シカは歩留りが非常に良くないこと、くくりわなは肉が傷んで使えないケースがよくあること、ヤクシカの個体数は将来的に捕れなくなってくること、先細りにしなければならぬ事業であるということを、事業者きちんと説明する必要がある。
- ・長崎県が H28 年度からのプログラムで捕獲個体の適正な処理方法を検討している。参考まで。

<植生保護柵について>

- ・3m×3m のわなでは小さいので、複数個を分散させるか、もっと大きいものにするかを要検討。
- ・コストとメンテナンスを考えると、小規模柵をたくさん設置した方がシカの動きに対する影響も少なくなくて良いと考えている。

<誘引・止め刺し等について>

- ・次回、餌と併せて鈹塩を誘引に用いることも検討すべき。
- ・誘引状況について、スレジカが出てくると出現する時間帯が変わってくることもあるので、日経過ごとのグラフとは別に、時間帯ごとのグラフがあると良い。
- ・止め刺しを社会的にどうしていくか、わなの形状を含めて止め刺しの方法を考えていくということをしるし始めても良いかと思う。
- ・わなの狩猟免許返納者については後で要確認。

<捕獲効率について>

- ・何頭捕ったかではなく、何頭減らしたかが成果。スレジカが増えたのか、または数が減ったのかよく分からない状況の繰り返しになってはいけない。
- ・スレジカ出現による効率の低下がどのくらいなのか非常に大きなポイントになる。このあたりの正確なデータをとる調査の仕方、発注の仕方をしるし考えるべき時期。
- ・捕獲のシミュレーションについて、メスの妊娠率または自然増加率の設定は後で要確認。

<生態系管理の目標設定について>

- ・生態系管理の目標を早く定めないと先に進まない。暫定案でも構わないので、関係者間でおおよそ共有できるような目標の設定に向けてスケジュールを定めることが必要。
- ・生態系自体の難しい部分は置いておくとしても、絶滅危惧種等に絞った上で優先順位をつけて整理を急ぐべき。
- ・生態系管理の目標については、基本的な考え方をどうするのかということをしるし固める必要がある。

議事(4)ヤクシカ対策における検討について

- ・委員からの意見は特になし。

議事(5)その他(屋久島西部地域の自然環境保護について)

<対応について>

- ・全体の中で、西部はこうやると体系的に説明していく必要がある。

<西部地域の自然環境保護について>

- ・屋久島の場合、防護柵を設置すれば数年で回復するという特性がある。下層植生を回復させてそれに付随する生物群集を復元させ、それをシカに開放してシカと植物の共存点を求めていくというのが西部のやり方ではないかと感じた。
- ・このままでは、土砂流出が増え、植物への圧力も変化していくことが想定される。
- ・世界自然遺産にふさわしい森にしていくべき。屋久島の森林生態系で一番重要な植生垂直分布が海

岸から連続する西部地域は大きな意味で、世界遺産の管理という意味でも非常に責任の重い場所である。